

## 『小さな生きものたちの不思議なくらし』

甲斐信枝 著

福音館書店（2009.9）



『たんぽぽ』、『つくし』、『ひがんばな』・・・甲斐信枝さんの絵本は子どもが小さいころ、「かがくのとも」でいっぱい楽しみました。美しいいねいな絵に、見慣れているそれらの植物に改めて愛情を感じ、子ども達と野に遊んだものでした。そんな甲斐さんが自然とどのようにおつきあいして

いらっしやるのか知りたくて、本書を手にとりました。

タンポポ綿毛のスケッチをしていた甲斐さんは、自分のスケッチが目の中の綿毛とほんのちよっぴり違っていると気づきます。デッサンが間違っていたのでしょうか？いえいえ、良く見ると、綿毛が目に見えないほどゆっくりと開き始めていたのです！もうスケッチ

はそっちのけでじーっと綿毛に見入ってしまった甲斐さん。3時間かけて、直径5cmほどの綿毛はやっと半分ほど開きました。『たんぽぽ』を見ると、植物であるタンポポがはつきりと生きて動いていることが感じられます。著者がわくわくどきどきしながら綿毛がゆっくりと開いていくのを見ていた時間が、絵本に生命を与えたのです。しっかりした観察が正確な絵を作っているだけでなく、作者の自然に対する心弾む気持ちが絵に表情を与えているのだと深く納得できました。

「自然の扉を押しさえすれば、押す人の心に照らして自然は千変万化のおつきあいをしてくれます」、と甲斐さんは教えてくれます。この本を手引きとしてこれからの一年、いろんな自然の姿を見ていきたい・・・期待に胸を膨らませています。

(小川)